

視点4：児童に評価をフィードバックする

基本的な考え方

1 誰のための評価か、何のための評価かを再認識する

総合的な学習の時間に限らず、授業における評価は、児童のために行われるものです。評価をすることで、児童がますますやる気になったり、安心したり、修正すべき点に気付いたりできるようにすることが大切です。認められ、ほめられることによって、児童は自信をもち、よりよいものを求める意欲が出てくるのではないのでしょうか。

評価の補助簿に児童の学習の様子を記録したり、通知票や指導要録に所見を記述したりする際も、学習の状況や成果などについて、それぞれの児童のよい点や可能性、進歩の状況などを積極的に評価することが大切です。

2 誰が、何を、いつ、何で、評価するかを意識する

一口に評価といっても、誰が、何を、いつ、など、いろいろな条件が伴います。次の表は、総合的な学習の時間において、一人の児童が多面的に評価されていることを表したものです。学習に協力してもらった地域の人や外部講師からの評価も児童にとっては大きな励みになります。他者からの励ましや指摘などによって、児童は、自己をより客観的に理解するようになるものと考えられます。これらの評価を場面に応じて組み合わせるなどして、児童の学習状況を総合的にとらえるようにしましょう。

誰が 評価者	誰を 対象	何を 評価の視点(例)	いつ 評価場面	何で 評価媒体、評価方法など
教師	児童A	育てたい力が育っているか	活動中 及び 活動後	媒体： 行動、発言、ワークシート、作品、ポート フォリオ、発表、動作、寸劇など 方法： 観察、言葉かけ、作品やワークシートへ のコメントなど
		学習活動の方向性はよいか		
		取組む態度はよいか		
		その他		
児童B	児童A	(略)		
児童A の 保護者	児童A	取組状況、学習内容など	活動後 自宅で	媒体： 作品、ポートフォリオ、発表など
地域の人	児童A	取組状況、学習内容など	発表会 や校外 活動で	方法： 言葉かけ、作品へのコメントなど
児童A	児童A	めあてに迫れたか	活動中 及び 活動後	媒体： 行動、発言、ワークシート、作品、ポート フォリオ、発表、教師や友達などからの 評価 方法： 振り返り、自己評価票の記述
		進み具合はどうか		
		進んで取組めたか		
		その他		

3 評価を意図的・計画的にフィードバックする

総合的な学習の時間においては、調べ学習、体験活動、発表などの事前準備や指導・支援などに時間と労力を注入せざるを得ないため、児童を活動させることに目が向きがちです。しかし、最終的には、児童が自分の力で課題を追究し、学習を成立させていくことがねらいです。

そのためには、学習の終末に評価するだけでなく、学習の過程において、意図的・計画的に評価を児童にフィードバックすることが必要です。具体的には、次のような工夫をするとよいでしょう。

評価をフィードバックする工夫

「がんばった」、「よくできた」などの漠然とした感想ではなく、具体的な学習成果を自己評価するようなワークシートや評価カードを工夫し、教師からのコメントを添えるようにする。

集めた資料を単にファイルするのではなく、有用なものを選んでポートフォリオとしてまとめていくことを指導する。 (⇒【事例1】)

総合的な学習の時間についての情報を積極的に発信し、保護者や、地域の人からの評価が得られるようにする。 (⇒【事例2】)

振り返りの機会（中間発表や成果発表など）を意図的に指導計画の中に位置付けるとともに、他者からの評価を実感できるよう工夫する。 (⇒【事例3】)

ここで気を付けたいのは、計画どおりに学習が進まず、予期せぬ方向に学習が展開してしまっても、児童が前向きに取り組んでいるのであれば、認め、励ます姿勢をもつことです。もちろん、教師は事前に、育てようとする資質・能力や学習させたい内容を明確にし、期待する児童の姿を想定して授業に臨むわけですが、総合的な学習の時間は、それまでに児童が身に付けてきた力を確認するためだけに学習活動を行うものではありません。児童が、失敗や困難を乗り越えていく力を育てるために行う学習でもあります。

多少のつまずきや停滞などは予想しておき、すぐに指示を出してしまうのではなく、待つことのできる教師でありたいものです。児童一人一人の学習状況を的確にとらえたうえで、次の手が考えられるようなヒントを児童に与えるなど、児童を励まし元気付ける情報として評価を生かすことが大切です。児童が、できるだけ自分の力で課題を解決したり、学習の質を高めたりしていくことができるよう、学習活動を指導・支援する教師のかかわり方が重要です。

**【事例1】 児童が学習の成果を実感できるよう評価をフィードバックする
- 価値ある情報を選び、友達や教師の評価を得ながらポートフォリオを作る取組 -**

この事例では、価値あるポートフォリオを児童に作らせること、教師が児童への支援を随時行うことで、児童と教師双方が、実施（記録）評価、修正のサイクルを実行できるといった、自動的に評価がフィードバックされるような工夫がされています。

下に示すのは、教師向けのポートフォリオ評価の手引きです。この手引きでは、ポートフォリオを「自分の価値あるものを集積したファイル」、あるいは「児童と教師両者が一緒になって、その子のよさを認め・伸ばしていくためにお互いが評価しあったもの」と定義し、作成について共通理解して指導に当たるための留意点をまとめています。右の囲み内に、参考になる留意点のいくつかを要約して示します。

<参考になる点>

- ・何でもファイルしておくような、単なる記録ではなく、あとで教師が評価や評定に活用する目的で作るものでもない。
- ・自分が価値あると認めるものを選び、教師が見いだした価値（よさ）などを伝えることによって、児童が学習の成果を実感できるようにする。
- ・教師や友達との対話によって、さらに自分について理解していく（メタ認知）。
- ・自分のファイルを見直して活動の方向性を確認したり、見せる（表現する）ことを意識して再編成したりする場を意図的に設定する。
- ・育てようとする資質・能力をはたらかせる場、育てる場として、意図的に学習に組み入れる。

ポートフォリオ (portfolio) 評価ってなんなの

1 初めに確認したいこと

ポートフォリオはただ何でもファイルしたものではない、
ファイルされたものを後で教師が評価に活用するためのものではない。

2 本校のポートフォリオ評価の定義
「自分の価値あるものを集積したファイル」

3 本校の考え方

(1) 「価値ある」とは

① 自分が価値あると認める

児童の、作品を作っている中で工夫したこと、活動での「がんばった」という気持ち、問題に対して深く考えたことなどは、表面には表れにくいものです。ですから、教師が見取る（評価する）ということができにくく、当然その児童に合った支援というものをできにくいものです。

自分（児童）が価値を認めたことというのは、児童と1対1で接すること（対話など）でやっと理解することができます。

ですから、児童が自分の判断でファイルしたときには必ずその理由を聞き取ってあげてください。そしてそれを記録して作品などと一緒にファイルしておくことを意識付けしてください。

また、児童自身もその思いを話すことでさらに自分について理解していく（メタ認知といえます）ものと考えます。

② 教師が価値を見出し、認めてあげる

児童の価値観というのはまだ未熟です。小学校は自分の狭い価値観から、多様な価値観に気づいていく大切な時期です。

そこで、児童が自分では価値を見出していない作品のよさや、児童の成長他に対しての影響などを積極的に伝えたり賞賛したりしてあげてください。

そうすることでいろいろな価値観があることに気づき、認め、自分自身でもそれを伸ばしていこうとする態度が育っていくものと考えます。

また、高学年になれば、事前に評価基準を伝えることで、自分の活動や問題解決の結果、作品などがそれに合っているか自己評価できるようになり、質の高いポートフォリオになっていくことでしょう。

的に設定してあげる必要があります。

つまり、ポートフォリオ評価とは
児童と教師両者が一緒になって、その子のよさを認め・伸ばしていくためにお互いが評価しあったもの
と言えます。

例えば、ある課題に対して討論会を行い、いろいろな考え方に触れ、自分のファイルの中身を入れ換えたり、単元の最初や最後に自分のファイルを見直す時間を取ったりする必要があります。

また、教師の方で意図的に目的を決めて、児童全員が同じファイルを作り比べあったり、討論しあったりするという活動に広げたり、ポートフォリオを作成する時間を単元の中に位置づけたりすることも考えられます。

ただし、教師は常に児童一人一人のよさを見取りまた児童の活動を理解しようとする心がある（つまり常にポートフォリオを増やしていこうという）必要があります。

② 「もの」とは
児童、教師が評価し合える物はすべて対象と考えるられます。

- ・テスト[アンケート]用紙
- ・作業用紙
- ・自己評価表
- ・作文
- ・ウェブページなどのマップ
- ・発表物
- ・録音物
- ・録画物
- ・作品
- ・写真
- ・プログラム
- ・プレゼン資料

④ 「ファイル」とは
ポートフォリオの場合、ただ保管するためのものではありません。いつでもそれを取り出し、友だちや先生にアピールしたり、自分の活動の方向性を確認したりできるためのファイルです。

ですから、「いつ」「どんなところがよくて」フィードバックされたものなのかが一目で分かるようにしておくような工夫も必要です。

③ 「集積」とは
ポートフォリオは自分の自慢大会です。でも、自分では自慢だと思っていたことがあまりうけなかったり、自分では気付かなかった自慢を教師や友だちに見つけてもらったりしたことで、絶えず中身を検討し、成長していくファイルでなくてはなりません。

そのためには、自分のファイルを見直す場を意図的に設定してあげる必要があります。

ファイルに入れるものは、作業用紙、自己評価票、写真、作品、発表用資料など、学習の過程で児童が作成したり記録したりしたものはすべて対象になりますが、「なぜファイルされているのかが児童に明確になっていることが大切である」という考えに立ち、児童と教師が互いに評価し合ったものを選んでファイリングさせています。学習を進める過程でポートフォリオという作品を作っていくわけですから、ファイリングするものを選ぶこと自体が、学習の成果や自分の成長を自覚することになります。そのうえ、ファイルに入れたものを見直したり再編成したりする際も、無目的に収集したものを後で整理するような手間と時間がかかりません。

児童が自分の判断でファイリングしたときには、その理由を教師が聞き取って、作品と一緒に記録をファイルに残しておくよう助言し、児童が価値を見いだしていないことについても、作品のよさや、児童の成長、他に対しての影響などを積極的に伝えたり賞賛したりしています。このように、教師と対話しながらポートフォリオを作ることによって、児童は、自分が工夫したこと、がんばったこと、深く考えたことなどについて、その価値に気付き、自覚できるようになってきています。

また、右に示した「ポートフォリオ評価の実際」という用紙には、児童がファイリングしたもののコピーや写真などと一緒に、その子なりの学びの価値(こだわりや気付き)や教師が見取ったこと、本人に伝えたことなどを記録しています。

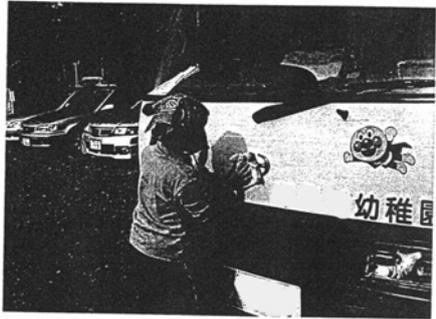
学習状況を評価することの難しさの一つに、評価が教師間で大きく食い違ってしまわないかということがあります。評価の規準を言葉細かく設定したとしても、同じような見取りができるとは限りません。この事例のように、児童の学習状況について教師がどのような価値を見いだしたのか、それをどのように児童に伝えたのかを記録しておくこと、さらに、それらを持ち寄って内容を検討することは、児童の学びの姿や成長を見取る教師の「眼」を養うことになります。

ポートフォリオ評価の実際 (5)年

11月17日()

単元名: わたしにできること

活動: 幼稚園の第一回交流活動

児童の様子	
教師の 見取り () ()	<p>本児は、幼稚園の時からこの「幼稚園バス」が大好きだったという。当時のバスではふいふいのお世話になったこのバスに感謝の意味もあるのか一人でもくしも黙々と行っていた。次回は、すみずみまで、ていねいにやると言っていた。</p> <p>*一人でよくかまはっているね、園長先生も喜んでくださると、本児のバスバスを認めた。</p>

児童が自分からファイリングしたときには、その理由も書いてください。
またそこから教師は何を見取ったのか書いてください。
様子は記録のコピーでも良いし、デジカメで姿や作品等を撮ったでもかまいません。
教師から見取ったときには、児童になんと伝えたかも書いてください。

【事例2】 保護者や地域の人からの評価が得られるようにする
- 学習のねらいや内容などについての情報を発信する取組 -

この事例では、総合的な学習の時間のテーマや主な内容、育てようとする資質・能力などを、できるだけ分かりやすい言葉でまとめ、保護者や地域の人に通知しています。

総合的な学習の時間では、中間発表や成果発表などのときに、保護者や地域の人を学校に招くことがあります。これは、児童の具体的な姿についての評価ばかりか、学校独自の教育課程についての評価をもらえる貴重な機会です。

このとき、保護者や地域の人に見てほしい視点を示すことで、児童の学習への賞賛や助言の内容が豊かになると考えられます。学校からの積極的で意図的な情報発信によって、総合的な学習の時間についての理解が進み、的確な評価を得ることが期待できます。

右のような学校からの配布物に加えて、児童が作成した招待状や参観者に記入してもらうカードを添えるという方法もあります。

保護者や地域の人に発表会に来てもらったり、家庭で話題になったりすることで、児童は、「大人も関心をもっているよ」というメッセージを感じます。それは、児童にとって価値ある評価であり、意欲の向上にもつながるものと考えます。



小 学習指導部通信 第 9 号
平成 年 月 日

総合的な学習の時間【いきいき総合発表会】について

先日、学校便りでお知らせしました通り、月 日に【いきいき総合発表会】を行います。ぜひお出いただき、本校の総合的な学習の時間の取組について御覧ください。今のスタイルになって3年目、児童も慣れ、発表の仕方を工夫したり、「自分なりのこだわり」を表現しようとしていたりする児童も多くなってきました。今年度、それぞれの学年では、下記のようなことを学んできました。今後さらに、総合的な学習の時間を通して、今日的な課題にふれ、自分の生活とのかかわりを見いだし、問題解決が図れるよう、内容を充実させていきたいと考えています。

学校 テーマ	学年テーマ	学年のテーマ と 主な学習内容
共に 生きる	3年 わたしたちの まち	『市の環境自慢大会をしよう』 市の自慢できることを詳しく調べて、工夫してまとめ、聞く人にわかりやすいように発表する。活動をとおして、郷土の自然環境を知り、郷土に愛着の気持ちをもてるようにする。
	4年 わたしたちと かんきょう	『すみよいまちパート ～ぼくらは環境調査隊～』 「きれいなまち」を追究する過程で取り上げた市内を流れる川や学校付近の水系の水質に関する調査を行い、自分たちができる取組について考える。

本校が、総合的な学習の時間をとおして児童に培いたいと考えている能力や態度を具体的にすると下のようになります。児童の学びの姿をご覧になる参考にしてください。

～ 4年生の例 ～

自己学習能力の育成	コミュニケーション能力の育成	自分とのかかわり・実践力
・指標生物やCODなどの観点を使って、水質を調べたり、調べたことから原因などを追究することができる。	・調べたことを分かりやすく伝えるために工夫して発表することができる。 ・様々な調べ方を身に付け、進んで問題を追究することができる。	・「きれいなまち」づくりのために自分たちができる取組を考え、実践しようとする。

「総合的な学習の時間」発表会についてのアンケート（例）

本日は、お忙しいところ、お出でいただきありがとうございます。子どもたちにとって、自分たちが調べたり取り組んだりしてきたことを発表し、保護者や地域の方々にも見ていただくことは貴重な体験です。以下の視点(発表会で見ていただきたいこと)を参考にして、総合的な学習の時間における子どもたちの学習の様子をご覧ください。

*ご覧になった学年:(年)

発表会で見ていただきたいこと		
1	発表の内容はよかったですか。	
2	分かりやすく伝えるための工夫がみられましたか。	
3	一生懸命に取り組んでいましたか。	

発表をご覧になり、どのような感想をもたれましたか。
感想や意見、児童への励ましの言葉やアドバイスなどお書きください。

【事例3】 伝えたい相手からの評価を得て学習を活性化する

- 参加・体験型の発表で、地域の人からの評価と支援を得る取組 -

保護者や地域の人を招いて学習の成果を発表することはよく行われており、児童は、発表の準備を進める過程で多くのことを学びます。

この事例では、パピリオン方式(屋台村方式)で発表を行っています。ここで工夫しているのは、クイズ、実演、体験コーナーなどの参加・体験型の発表を意図的に行わせ、地域の人と言葉を交わす場を設けていることです。舞台での発表よりも近い距離で少人数を相手にした参加・体験型の発表には、右のようなメリットがあります。先生ではない大人からの評価は児童に自信を与えますし、学習に直結する助言と地域情報を得るチャンスでもあります。

参加・体験型の発表のメリット

伝えたい相手を具体的に思い浮かべながら、「伝える」ことを意識して準備ができる。伝えたい相手の顔を見ながらの発表であるため、相手の反応が分かる。言葉で伝えにくいことを動作などで演示する際に、よく見える。相手に体験してもらい、感想が聞ける。その場で言葉を交わすチャンスがあり、助言や地域の情報が得られる。

ポイント：学校参観日に少人数対象の発表をする。参観者にも体験コーナーやクイズに参加してもらい、その場で反応や感想（評価）をもらう。

アイマスクを付けてのクイズ

これは何かな？
アイマスクをしているとなかなか難しいな。



手で触って何の品物かを当ててください。時間は30秒間です。

乳搾り疑似体験コーナー

よくできてるわねえ。
本当にやってみたいよ。



牛の模型を作り、参観者に体験してもらっている。